

第3回 帆船日本丸保存活用検討委員会

開催日時：平成22年5月26日（水） 午後3時～5時

場 所：日本丸訓練センター 第3会議室

出席者：（委員）

金谷委員、嶋田委員、庄司委員、高見沢委員、山本委員
（オブザーバー：財団法人帆船日本丸記念財団）

山本帆船日本丸船長、池澤総務部長
（事務局：横浜市港湾局）

みなと賑わい振興部賑わい振興課
金綱部長、小賀野課長、久保係長、山田、辻
施設課
森課長、中山係長、三枝木、坂本

次 第：議題

（1）第2回委員会のまとめ（議事録等の確認）

（2）提言について（要旨の検討）

→（2）に対する各委員の意見等は、次のとおり

「帆船日本丸保存活用検討委員会 第3回まとめ」について

（●は委員の提言要旨案に対するコメント）

第3回では、主に提言要旨案（提言の骨子）について、検討を行った。

*** 提言要旨案の項目 ***

帆船日本丸保存・活用策実現のための前提条件

- 1 帆船日本丸保存の考え方
- 2 帆船日本丸保存のための課題と具体策
- 3 帆船日本丸活用の具体策
- 4 帆船日本丸の周辺整備に関する課題

帆船日本丸保存・活用策実現のための前提条件

- ・保存・活用のための本格的な議論を行うにあたっての帆船日本丸に対する現状評価
- ・評価から導き出される根本的な課題
- ・保存、活用をするにあたっての基礎となる考え方（前提条件）

●（評価としては）当時は多くの市民の署名を得て誘致した。横浜にとって重要な施設であるが、残念ながら現在をみるとこうなっている※（という内容になるか）。

※認知度が低い、MM21 地区にありながら切り離されたような場所になっている。保存に対する市民の理解が不十分、など。

●前提に基づいて次の提案をしていく、具体的なことを考えていく、といった構成にした
い。

●「非常に貴重なもので、市民の署名のもと誘致された。」という表現を入れたい。

●長年にわたる市民の熱意と層の厚さが表現できると良い。

1 帆船日本丸保存の考え方

・保存についての基本的な考え方やいつまで、どういった形で保存していくか（目標）

●「昭和5年建造の船は非常に貴重」、「他には例がなく同様の船は日本丸を含め2隻しかない。」など、やはり日本丸を残すのは責務だということが分かるような理由を述べる。「誘致したのだから、末永く保存してほしい。」というところか。

●日本丸の価値、貴重さについて述べる。

●港があって横浜が成る。「横浜ならではの」というものを入れておいた方が良い。

●横浜は港がテーマである。

●総帆展帆にしても海洋教室にしても、一般市民からすれば1つの価値を見出すきっかけである。1つのイベントであるが、そこにおける教育効果もある。

●生きた船として保存しようという考え方を入れる。

●関わっている人の、活動そのもの、人間そのものが大事。

●80歳の船は（他に）ない。そういう意味では本当にしっかりと修繕をやった方が良く
思う。

●（保存の目標を建造から）100年とするが、その表現に工夫が必要（「もっと頑張ってやる。」といった力のこもった表現をするなど）。

●日本丸は人を育てる船だった。その点というかその継続されたものが帆を張ったり、あるいは子どもたちを育てる海洋教室につながっている。歴史を引き継ぐような、そんな感じの表現にすると、受ける側に「人を育てる船なのだ。」というような理解をしてもらえる。

2 帆船日本丸保存のための課題と具体策

・保存にあたり、目標を実現するための課題と具体策

●これまでの議事録にある委員の提案を各項目に入れて、それに具体的な解釈を加えて提

言書にしたい。

●「認知度を上げるためにこういうことをしますよ。」というところまで踏み込んで提言したら良いと思う。

●認知度があるのかないのか事実をちゃんと把握する。少なくとも誘致した当時のような市民の熱意がなければとても保存できない。「やはり、認知度の向上は必要ですね。」という感じが良いか。その上で具体策にしていけないと、結局は整理したけどだめということになるのかなと思う。

●現在行っている事業を継続するために、平水区域の資格を維持しなければならない。

●まず、船の見えないところをしっかりと修繕してから、定期的に船体の状況を把握し、その時々状況に応じた整備方法を検討・実施していく。

●船の整備については、「現在の深刻な状況を思い切って改善して、さらに20年間・・・。」とする。

●資格、船舶については、はっきり分かったか、船に関係しない人にも分かるような表現にしたい。

●都市の文化というのは、(たとえば)建物とかドック遺構とかそういうものとともに近代化遺産としての船があると思うが(、そういうものだ)。横浜では建物の保存をしている。トータルに、横浜の古い歴史をどうやって検証するかという中で、船も(歴史、文化の一部として)必要なんだと(認識させる)。横浜として、古いものを残すという視点を(提言に)入れていきたい。

●魅力ある都市は古さと新しさが混ざっているものが良いと言われているから、そういう視点はあった方がいい。

●港湾局だけで頑張っても限界がある場合に、都市整備局他、色々なセクションが、日本丸の保存活用を政策としていく。そういう歴史的なもの(の保存活用)は総合で取り組むようになれば、船も(対象の一つとして)位置づけられるのでは。

●「歴史を生かした街づくり」といういい言葉がある。とりわけ、「歴史」という言葉がドックであり、帆船日本丸が未来につなげる素材だというような表現だとうまくまとまるのでは。「観光資源」だけではなく「教育効果」もあることを示す。

●(横浜に)歴史がないからこそ、(帆船日本丸のような)歴史を生かす。

●日本丸を通して人を育てていくというか、人材を育てるという視点をもっともっと考えて打ち出して言った方がいいと思う。これから先を作るは子どもたち。その子どもたちが日本丸で育つとしたらお金をつぎ込む。(船体整備の)ハードな面だけではなく(総帆展帆などの)ソフトな面でも、いかに日本丸が保存される必要があるのかということを前面に出した方がいいと思う。

●船底の鉄板が何mmだから人材育成ができないのではなくて、人材育成をするためにはその鉄板が何mmにならないように気をつけなければならないという考え方。その辺を表現したい。

3 帆船日本丸活用の具体策 4 帆船日本丸の周辺整備に関する課題

・帆船日本丸をより有効に活用していくにあたっての具体策（3）と周辺整備に関する課題（4）

●海洋教室の開催頻度の拡大化は良いことだと思う。利用頻度を高くしていくということは事業を知ってもらうために効果的で、大切なことだろう。しかし、それだけではなく、海洋教室、総帆展帆など、提言をみる人が、具体的にこういうものだと分かるような表記をするとより伝わるのでは。

●港湾局の視点だけで言えば（日本丸は）潰すべきになるかもしれない。だけど、市民局や教育委員会が人材育成という視点から見たら、潰すなんてもってのほかになるかもしれない。連携していくというか、全体で見ていく視点でないとまずい。今までは港湾局のものというか、港湾局が管理しなきゃいけないようなものだから、管理などをやっているだけで、後は知りませんという感じだ。だからこういう状況になってしまった。ネットワークを密に取らないと今までと同じになる。この辺のことはもっと推し進めて良いかなという気がする。

●「マスコミ、ミニコミなどに出してもらおう。」等、PRについても提言したらどうか。露出度は多ければ多いほど、皆の注目を得ることができるのではないかな。

●建物と船との調和についても触れてはどうか。

●どの動線を意識して日本丸を設置しているかなと考えた。総帆展帆を「動く歩道」から観た時に、帆がドワーっと目の前に飛び込んでくるように見える。それだけは意識して周辺整備していたと思う。その辺も含めて当時と現在を正確に書く。前回は議論したように水際線もネットワークの1つとして位置付ける。

●20年間に市がどういうことをやるかという内容があり、その他運営していく人たちや、市民に対してどういうアクションを起こしたらいいか、まとめた方が良さそう。市民も考えなければならぬし、横浜市や事業主体は市民に考えてもらえるよう働きかけなければならぬ。事業主体についても、財政も厳しいので、あと20年間しっかり考えていくことを求め、提言していく。市民の目を向かせるには20年間で何をやるべきかをまとめていった方が良さそう。

●行政の役割、財団の役割、市民の役割というもの（視点として）1つある。ぜひ、今から25年前を思い出そうというような感じか。「それは行政の役割だ。」と市民が引いてしまうのが一番いけない。

●こうやったら市民が意識するんじゃないかなというものをまとめてみる。

●どこかの媒体、新聞、雑誌が取ってくれると効果がある。そこでどういう持っていくかたをするかが大事。日本丸として、こういうイベントがあるという広告をするとか。総帆

展帆でも良いと思う。常に市民の目に触れさせる。常に日本丸をアピールしていく。ランドマークも、横浜みなと博物館も一緒だから、日本丸にも努力してほしい。それが非常に人を引きつけてくれる。プレゼントを置くのではなくて、働きかけるのが大事。

●80周年というのは、日本丸と氷川丸が2隻が重なったので、より効果があった。そういうものを絶対逃さない。やっぱり残すためには皆に注意を引いてもらうのが一番良いと思う。今回の保存が「日本丸あと20年生かしますよ。」というものだったら、皆に「日本丸ってそういうものなのだ。」と目を向けてもらう。

●年に1回だけでも大きなことがあればそこには必ず人が来ると思う。すごく大きなイベントがあれば良い。そういうことがやれると関心度が全然違ってくるだろう。何か1つ、1回くらいあれば良い。注目を引くことができるかもしれない。

●総帆展帆もここでしかできない。思考を変えてみる。アピールしていく。実際にこういうことに市民の方が携わるということは、大変貴重な体験。横浜という中心地でできることだからすごいことだ。

●一般市民に向けて参加を募る。毎回じゃなくて年に1回とかにする。展帆ボランティアにとっても、毎回ということになればだめだろうが、「1回だけ、日本丸のために。」と言えれば分かってもらえないか。ただ見ているだけでは続かない。体験の場としてあれば良い。1回でも帆を動かせば感動もあるので、次は入館してみようというのがあると思うが、そういうものがないで、活用しようとは思わないだろう。

●（どれくらい緊迫した状態であるか、）港湾局がどういうつもりでこのような検討委員会を立ち上げたかを考えると（市民感情の盛り上がり）そんなにゆっくりと待つものはないだろう。（日本丸の存続を目のあたりにするような）素直な感情が湧いてくるような何らかの機会を利用する。APECだとか建造80周年やコンペなどのイベントにあわせてアクションする。市民の目が向いてきたら、市長が出てきて「10億円を投じて船体整備をやります。」というようになれば良い。

●「危機的な状況があって何とかしたい。」として提言書をまとめていきたい。さらに事業主体に対して、できるだけ有効に費用を使うとか、近くの氷川丸、船に関連する博物館と連携した事業をやるとか、建設的な運営の仕方などもまとめられればと思う。

●日本丸はたびたび横浜から出港して親しまれていた。氷川丸も同じだ。そういう兄弟80周年で100歳を目指して、次の歴史を作っていこうというものを出していきたい。